

世界漫遊特集 vol.3 2015年9月号

「在韓UN記念公園」 韓国・釜山

文・蒲原彩乃

釜山博物館の目の前に位置する「在韓UN記念公園」。1950年〜1953年の約3年間朝鮮半島で行われた朝鮮戦争で戦死した国連軍の埋葬のために作られた墓地です。

国連軍として参戦した21ヶ国の国旗がたなびくこのUN公園。戦闘支援16ヶ国、医療支援5ヶ国で4万名余りの戦没者を出し、現在では2,300名の戦没者が眠っています。国連軍司令部により設置され、韓国はこの敷地を永久に国連に寄付、現在では11ヶ国で構成された在韓国連記念公園国際管理委員会が管理しています。

私が訪れたのは緑が青々とした夏でしたが、静粛な雰囲気にも包まれていました。あまり西洋人を見かけない釜山でも、この公園には数名の西洋人が観て回っていました。



何ヶ国かは全員祖国に送られ、墓石のない国のエリアもあります。入口でもらえるパンフレットには、現在何名の戦没者が眠っているのかが記載されており、その中には「非戦闘要員」や「無名戦士」の記述も。この公園を訪れているのはやはり韓国人が多く、私が行った時には日本人の姿は見られませんでした。



公園内には、戦没者が眠る墓地のエリアと記念館、追慕館、国連軍慰霊塔や戦没将兵全員の名前を刻んだ追慕名碑もあります。記念館では、当時の写真などを国別に観ることができ、中には国連軍として派兵された生存者がこの公園を訪れた際の写真などもありました。



敷地のところどころに各国の言葉で書かれた石碑などもあり、いかに世界中から派遣されてきたのかがわかるようです。ガイドブックではあまり紹介されないこの公園。肅々とした雰囲気、平和とは何かを考えさせられる場所です。

国連が指定した世界唯一の聖地であると言われているこの公園は、地下鉄2号線大淵(デヨン)駅からタクシーで10分ほどで、入場料は無料。釜山博物館に行かれる際はぜひ少しだけ足を伸ばしてみてくださいいかがでしょうか。